

『経営に役立つヒント』

令和五年十月一日

第二百四十五号

「朝こそすべて」一日二十四時間、朝があり昼があり夜がありとするのは死んだ機械の一日にすぎない。活きた時間は朝だけ、換言すれば、本当の朝を持たなければ一日無意義だということだ。朝を活かすことから人生は始まる。」 安岡正篤師

会社を発展させ、社員を幸せにし、社会を善導する責任ある立場の我々中小企業の社長に、非常に厳しく的確に指摘して下さっています。

言い換えれば、朝とは、人生の朝であり、少年期から青年期を指しているともいえます。我々、中小企業の社長は若い社員を、お預かりし育て、一人前の人格者となるよう導く重大な責任があります。

「若さを浪費するな。勉強を節約するな」と、平澤興先生も、若さの大切さ、朝の重要性を、今を生きる者たちに語って下さっています。

そのことを心に置いて、日々、若い社員を指導して参りましょう。

「盛年重ねて来たらず、一日再び晨成り難し。時に及んで当に勉励すべし。歲月は人を待たず」 陶 淵明の漢詩が、ややもすると怠惰に流れる我々を鼓舞し、これでは駄目だと、背中を押してくれます。

人生の朝を、がっちり掴み、正々堂々の人生を送ってくれるように、まずは我々社長が、姿勢を改めて参りましょう。

「若い時に時間を惜しんで、工夫をして学ぶ。それが身についているひとは、生涯にわたってどれだけ時間を節約できるでしょうか。」と、渡部昇一先生が教えて下さっています。

二度ない人生、若い時の習慣が、人生を決めるのです。

繰り返しますが、若い時は、うかうかと過ぎやすいものです。それを、誰が軌道修正し、正しい道を歩ませるのか。我々、社長しかありません。

社員は、財産だ、宝物だと口で幾ら言っても、伝わりません。しかし、先哲の言葉、古典の名言には、圧倒的な説得力があります。年齢を重ねるほどに、痛いほど解ります。

最後に、森信三先生の、言葉で締めくくります。

「一日は、一生の縮図なり」

今月のポイント

朝こそすべて。

